「第1回アジア美術館基本計画策定に関する有識者会議」議事概要

■ 基本的な方針(案)について

- ・ 目的を持って来訪した人が「学び・体験」をする以前に、まだ目的を持っていない人がアジア美術館に「出会う・気づく」というフェーズがあるため、その段階からの仕掛けづくりが必要。人流の多い都心にあるという警固公園の立地を生かして検討できると良い。
- ・ 「アジアの多様な美術や文化との出会い」を促進するため、地上部を含めた来訪者増加・賑わい創出に資する取組みを1つの柱として追加してはどうか。

■ 美術館活動について

- ・ アジア美術を通じて、批評性、社会的な問題を投げかける「問いかけ」は非常に大事なことだが、市場に発信するコミュニケーションワードとして、一般の来館者に対して理解しやすい表現にするなど工夫が必要。
- ・ 教育的機能は展示室の近くにあることが運用上望ましい。
- ・ 短期調査・長期滞在を問わず、作家などの来館に対応できるような研究スペースやサポートスタッフを置き、川端（現館）は情報研究のセンター的機能となることを重視してもらいたい。
- ・ アジアとの相互交流に関連し、アジア出身で海外在住の作家のような、複数の場所にアイデンティティを持つ作家についても情報収集してほしい。
- ・ アーティストの迎え入れだけでなく部分的にでも送り出し機能も備えた方がいいのでは。
- ・ 今後の収蔵品数や、既存建物の利活用などの収蔵スペースの構想を整理しておくべき。
- ・ 将来的な公立美術館の予算事情、及び企業が存続する社会的意義の双方の視点から、民間との連携、協働は極めて重要になる。

■ まちづくりの観点

- ・ アジアの特徴として、伝統は保ちつつ急激な都市化、人口増加などに対応してきたという歴史がある。その視点で見ると、今回、まちの変化によって都心の駐車場がアート空間に変わることは象徴的。その重要性やメッセージ性を考え、ここに美術館をつくるという意味やプロセスそのものを大事にするべき。
- ・ 天神ビッグバンなどの都市政策も含めて考えるべき。都市側の視点ももって、天神にアジア美術館が来ることによる地域の未来像も描けると良い。
- ・ 駐車場から美術館への転換は、福岡市の都心部の交通政策のストーリーにも合致する。美術館目線で整理されているので、より広い目線でアジアにおける日本や、福岡市の位置づけ、天神の警固公園という場所の意味、定義づけ、目指すべきビジョンを整理すべき。
- ・ 美術館の機能に関する内容や具体的な施策などをより深めた内向きの議論資料と、アジア美術館のビジョンや役割、福岡から世界に発信するメッセージなどを分かりやすく整理した外部向けのコミュニケーション資料を分けて整理したほうが分かりやすいかもしれない。
- ・ 警固公園は都市の中の生きた公園空間であり、地上での公園的機能を残すことが望まれる。それを念頭に地上部と地下部の接続を検討すべき。
- ・ 福岡市内に複数の美術館があり、また、天神ビッグバンにより民間施設内にアート作品が展示されるなど、街中でアートが楽しめるようになってきた。このような環境・潮流を踏まえた上でアジア美術館の位置づけや意義を検討することが必要。
- ・ 周辺の施設や企業がブランド価値の向上を感じて連携していけるよう、今、アジアの美術を取り上げることの意味や価値、警固公園にアジア美術館をつくる意義を示すことが必要。

■ アイデア収集

- ・ 企業や教育研究機関などが対象と考えられるが、質問内容によって得られる情報の精度と粒度、密度がかなり変わるので、実施前に、実施タイミング・回数や目的をよく検討した方が良い。
- ・ 警固公園には地上部、地下部それぞれ都市公園法や面積上の制限があるため、民間事業者の意見を聞くと諸機能の解像度が上がるかもしれない。